

「夏目漱石生誕一五〇年記念」

「漱石と五葉」

漱石を感嘆させた装幀画家」展



「僕の文もうまいが橋口君の画の方がうまい様だ」と、漱石を感嘆させた五葉（橋口清）。

漱石から多くの作品の装幀をまかされました。

二人を引き合わせたのが五高時代の教え子、兄の貢です。

「猫」の挿絵を巡る漱石、貢、五葉それぞれの絵はがきに、

漱石作品の五葉装幀本誕生の様子がうかがえます。

生誕一五〇年、自然の中の小さな美術館は、ふたたび

漱石ワールドです。

公益財団法人四国民家博物館 四国村ギャラリー

平成二十九年四月二十九日（土）▼六月二十五日（日）

◇開館時間…九時～十七時（入館は十六時三〇分まで）（会期中無休）

◇観覧料…大人千二百円／高校生七百円／小中学生五百円

◇編集協力…中島国彦（早稲田大学名誉教授）

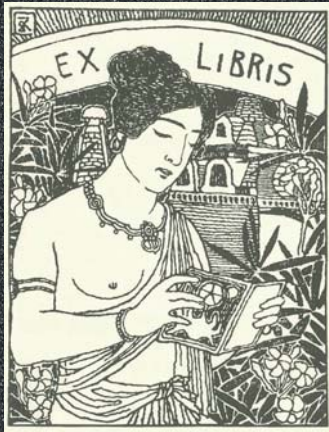
◇展示協力…鹿児島市立美術館／県立神奈川近代文学館／学習院女子大学図書館

◇主催…公益財団法人四国民家博物館 ◇協賛…カトーレック株式会社

◇後援…香川県／高松市 ◇助成…公益財団法人朝日新聞文化財団



漱石と五葉 漱石を感嘆させた装幀画家



夏目漱石は、「吾輩は猫である」を「ホトトギス」に連載し、英文学者から作家に転身したころの漱石は、弟子や友人たちと盛んに自筆の絵はがきを交換していました。五葉の兄の橋口貢は絵の素養があったことから、漱石と沢山の絵はがきを交わしています。五葉が漱石の初版本の装幀を手がけたのは、高浜虚子から漱石自身が頼まれた「ホトトギス」のカット絵を貢に頼み、貢が五葉を推薦したことからでした。

兄弟の育った橋口家は、黒田清輝が縁戚にあたり、父も四条派の絵をたしなむ家系です。五葉は当時、上野の美校で洋画を専攻する画学生でしたが、漱石から依頼された挿絵や装幀を通して、やがて商業デザインという新しいジャンルの先駆者となります。東京帝大法科を卒業し外交官となった貢は中国に赴任、頼まれて漱石に筆や硯を送って漱石を喜ばせ、書画のことなどもよき話し相手として、晩年までその交流は続きました。本展では、漱石、貢、五葉が互いに交わした絵はがきをはじめ五葉の装幀原画、兄弟ゆかりの漱石遺愛の品などを通して、その交流が紡がれていくさまを展覧します。



▲夏目漱石
(慶応3～大正5年)



▲橋口五葉 (本名：清)
(明治14～大正10年)



▲漱石宛五葉自筆絵はがき
明治38年1月16日
「吾輩は猫である」(続篇)の原稿を面白く読んだこと、「猫」の挿絵を2、3枚作図する旨、伝えている
【県立神奈川近代文学館所蔵】



▲五葉宛漱石自筆絵はがき
明治38年1月18日
挿絵を画いてくれることへのお礼に加え、「面白い奴を沢山かいて」と書いている
【当館蔵】



▲漱石宛貢自筆絵はがき
明治37年10月12日
この絵について「鶏の画は頗る瀟洒」と漱石が返信している
【学習院女子大学図書館所蔵】



▲化粧の女 大正7年
晩年に五葉が手掛けた珠玉の浮世絵美人版画
【鹿児島市立美術館所蔵】



▲『吾輩ハ猫デアル』
下編表紙から



▲『吾輩ハ猫デアル』
上編表紙から



▲橋口貢
(明治5～昭和9年)



- ◇会期：平成29年4月29日(土)▶6月25日(日) 会期中無休
- ◇開館時間：9時▶17時(入館は16時30分まで) ◇観覧料：大人1,200円/高校生700円/小中学生500円
- ◇編集協力：中島国彦(早稲田大学名誉教授) ◇展示協力：鹿児島市立美術館/県立神奈川近代文学館/学習院女子大学図書館
- ◇主催：公益財団法人四国民家博物館 ◇協賛：カトーレック株式会社 ◇後援：香川県/高松市
- ◇助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

交通アクセス

高松空港から：空港リムジンバス「瓦町」下車、タクシーで約20分/ことんでん志度線「琴電屋島駅」下車徒歩5分
高松駅から：ことんでん志度線(瓦町乗換)「琴電屋島駅」下車徒歩5分/JR高徳線「屋島駅」下車 徒歩10分
お車：JR高松駅より約20分/高松空港より約40分/
高松自動車道高松中央ICより約15分/高松自動車道志度ICより約20分 *無料駐車場：大型バス5台・普通乗用車200台

公益財団法人四国民家博物館 四国村ギャラリー 〒761-0112 香川県高松市屋島中町91 Tel.087-843-3111

